

教育情報化整備事業

教育委員会 学校教育課

(旧学務課 学校教育係)

1 目的・事業概要



●国のGIGAスクール構想

1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等の学校ICT環境を整備・活用することによって、教育の質を向上させ、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目的としています。

●筑西市教育大綱

「学校教育の情報化の推進」として、ICT機器やタブレット端末を活用し、児童生徒一人ひとりに適した学びや、主体的、対話的で深い学びへの転換を推進し、学習意欲や思考力・判断力・表現力などの向上を図り、ICT機器を活用する力の習得と、確かな学力を持った子どもの育成に努めるとともに、学校業務の効率化の推進を図ることとしています。

本事業は、これらの国の方針等を踏まえ、本市のICT教育環境を積極的かつ適切に整備することで、効果的な学習環境を維持することを目的としています。

【令和7年度予算額】 310,370,000円

【主な実施内容】 学習用コンピュータ機器等賃貸借、校務用共用パソコン調達、児童生徒用タブレットケース購入、校内通信ネットワーク整備委託、ICT支援員配置業務委託、GIGA端末保守業務委託、校務支援システム改修委託、学習用ソフトウェア利用調達 など

2 これまでの主な実績



- 【R2年度】 ・ 1人1台タブレットPC購入（7,000台・Dynabook）
- 【R3年度】 ・ 学校サーバ機器更新（5校）、校務用パソコン機器更新（60台）
 - ・ ICT支援員配置導入
- 【R4年度】 ・ 校務支援システム更新（60ヶ月使用料契約）
 - ・ センターサーバ機器更新（61ヶ月賃貸借）
- 【R5年度】 ・ 学校サーバ機器更新（5校）、校務支援システムカスタマイズ
- 【R6年度】 ・ 学校サーバ機器更新（5校）、指紋認証導入
- 【R7年度】 ・ 校務用パソコン機器更新（600台）
 - ・ 1人1台タブレットPC更新（7,600台・Lenovo）

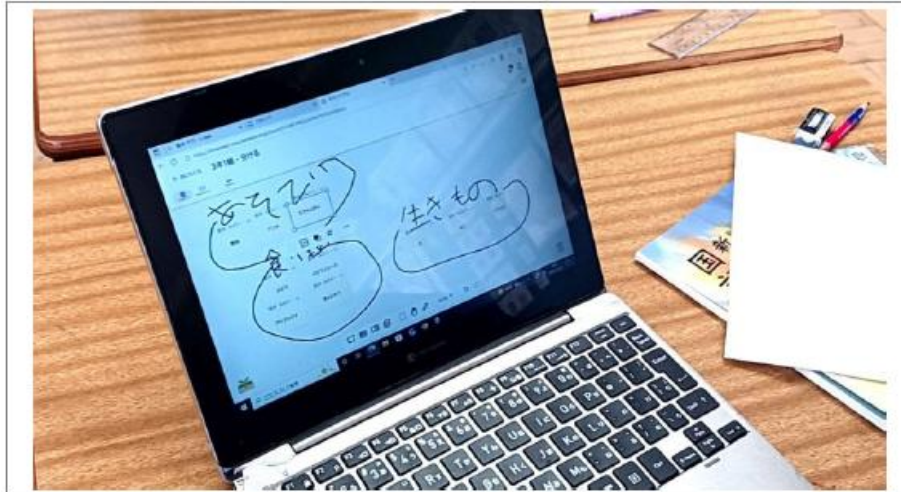


3 実施状況



◎児童生徒1人1台タブレット端末配布

文部科学省のGIGAスクール構想に基づき、市立小中義務教育学校の全児童生徒に配布



3 実施状況



◎ ICT 支援員

先生が教科指導において、日常的にICT機器を利用でき、指導効果を実感いただけるよう、ICT支援員が学校に訪問して案内や授業等のサポートを行う。

【ICT支援員の業務】

- ・ ICT機器を活用しての授業打合せとそのサポート
- ・ 機器、ソフト、教材等の紹介や活用方法の助言や提案
- ・ 機器の操作支援
- ・ 活用事例等の収集及び提供
- ・ 教職員研修の実施支援 など

【主な支援内容】

| 学校名（学年） | 活動内容 | ICT活用の目的 | 具体的な授業内容 |
|----------------|---------------|--|---|
| 河間小学校 （5年） | おとづくり | 楽器演奏の習得に左右されず、デジタル教材で繰り返し試しながら、旋律を作る | ブロックを配置して演奏できるデジタル教材を使い、再生と修正を繰り返して旋律を作成し、発表する。 |
| 関城西小学校 （1年） | 音読の動画を撮影してみよう | 動画撮影を行い、自身の音読の様子を客観的に確認し、音読スキルの向上を目指す | オクリンクプラスの動画撮影機能を利用して自身の音読を撮影し、再生して良くできているところ気をつけることを確認し、動画を先生に提出する。 |
| 下館中学校 （教職員） | 生成AIの概要と注意点 | 生成AIの概要を把握し、授業準備の効率化や生徒の情報活用能力の強化につなげる | Copilot、NotebookLMの（エージェントの設定、ソースの追加等）操作方法や授業で利用する際の注意点を説明する。 |
| 協和中学校 （2年） | 職場体験のまとめ | グループでプレゼンテーション資料を共同編集し、聞く側に分かりやすく伝える | PowerPointのアニメーション機能を使い、職場体験についてグループでひとつのスライドを作成し、発表する。 |
| 明野五葉学園 （4年） | 明野未来デザイン | 環境問題について調べたことをグループで共同編集して資料にまとめ、自分ができる取り組みを考える | TeamsにアップロードされたPowerPointのフォーマットを使い、グループ毎に調べた明野の環境について、現状や問題、今後できる自身の取り組みについてスライドを分担し、共同編集してまとめた。 |

4 成果



- ◎タブレット操作の基礎を身につける学習が充実しており、ICTに親しみながら学ぶ活動が広がっている。
- ◎調べ学習や実体験の記録をデジタルで整理する活動が多く、学習の整理と表現にICTが効果的に活用されている。
- ◎Teamsについてアンケートや連絡事項で日常的に活用され、文章作成の場面ではWordを選択肢の1つとして用いるなど、目的に応じて各種ツールを活用している。
- ◎「提示用具」から、児童生徒が自ら考え、表現し、学びを深めるための「学習用具」へと変わってきている。
- ◎先生方も、集計機能や学習管理、カルテ機能の操作研修を受けて操作理解を深めている。

5 課題及び今後について



【課題】

●校務DXの推進

GIGAスクール構想では、「児童生徒1人1台端末」や「高速大容量ネットワーク」といった学習基盤の整備が図られました。文部科学省は、この次のステップとして「校務DX」を位置づけており、デジタル技術を活用して学校現場の業務（＝校務）を変革し、教職員の業務効率化や教育活動の質向上を目的とした取組みを推進していることから、これを実現するための環境を整備することが課題となっております。

【今後について】

●次世代の校務システム導入に向けた検討

教職員の業務実態を丁寧に把握し、関係者との合意形成を図りながら、段階的に次世代校務システムの導入を進めます。

●ICT教育環境の維持

引き続き教育情報機器の整備や更新などを進めるとともに、システムの安定稼働に努めます。

【R8年度】学校サーバ機器更新(5校)、ICT支援員配置業務（更新）

【R9年度】校務用パソコン機器更新(120台)、学校サーバ機器更新(5校)

